



歯医者さんが教える 歯と口腔の健康管理

〔第31回〕 妊産婦と歯科について

監修／歯学博士 鹿島 健司

「妊娠すると歯が悪くなるのは、お腹の赤ちゃんに母親のカルシウムがとられるから」と言われる方がいらっしゃいますが、これは全くの迷信です。原因として、つわりやホルモンバランスの変動による次のようなことが挙げられます。

1. つわりが酷いと上手く歯磨きができない。
2. 唾液が酸性に傾き、口腔内の細菌が増えやすくなる。
3. 唾液が粘り、食べかすが残りやすい。
4. 間食が多くなりがちになり、歯の再石灰化が起こりにくくなる。
5. X線撮影や麻酔等を考えると歯科受診を控えてしまう。

つわりのひどい方は、子供用の小さい歯ブラシを使用することをお勧めします。また、気分が悪いときは無理して歯磨きをしないで、少し良くなってから磨くようにしましょう。どうしても歯ブラシを受け付けられない場合は、うがい薬でしっかりぶくぶくうがいをしてください。

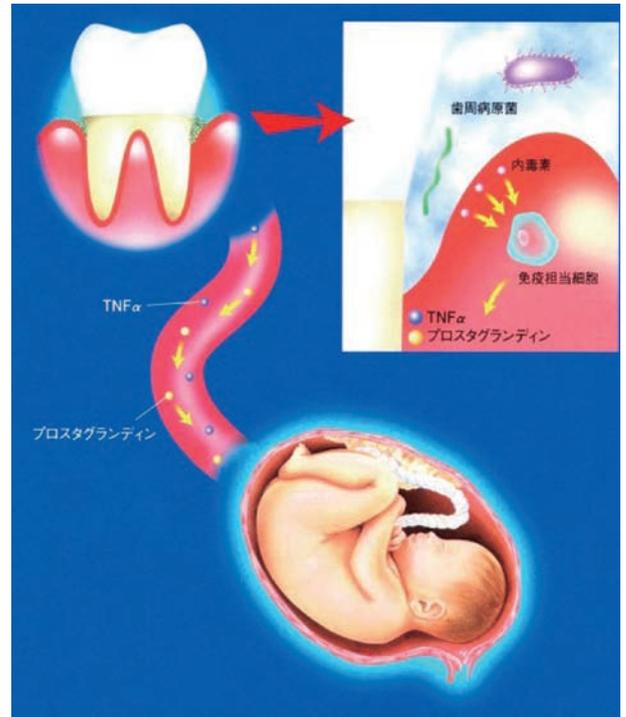
また、女性ホルモンの分泌が増加することで、妊娠性歯肉炎(写真1)が起こりやすくなり、妊娠性エプーリスという良性の腫瘍が口腔内に出現することもあります(写真2)。



写真1 妊娠性歯肉炎：ホルモンの変調で歯肉の炎症が起こりやすくなる。



写真2 妊娠性エプーリス：良性腫瘍の一種で出産後に自然消失することが多い。



歯周病菌の内毒素は、免疫担当細胞を刺激して種々の活性物質を誘発し、その中のプロスタグランジンやTNF- α は血管を介して子宮を収縮させて、早産を引き起こす。

さらに、食生活が不規則になることで、口腔の環境が悪くなりやすくなってしまいうことも妊娠中のむし歯や歯周病の原因となります。近年、妊婦の歯周病は、早産や低体重児出産といったものをもたらすことが解ってきています(上図)。

妊娠前から定期的に口腔の検診を受け、むし歯や歯周病がない状態にしておくてください。妊娠初期には赤ちゃんの歯ができて始めます。胎生7週には最初に生える下顎前乳歯が、胎生4ヵ月ともなると永久歯(第一大臼歯)の形成が始まります。妊娠中に歯や口に不安がある方は、迷わずに歯科を受診してください。生れてきた赤ちゃんにむし歯の原因菌が感染しないようにしましょう。

妊娠中は歯の治療を受けないほうがよいという方がいますが、実は妊娠中こそ歯科医院を受診し、トラブル予防のケアをすべきなのです。通常のむし歯や歯周病治療であれば、安定期(妊娠5~8ヵ月)であれば問題なく行えます。受診時には必ず母子手帳を持参して、現在の産科についての状況を歯科医に伝えてください。

監修／鹿島健司(歯学博士)。1958年1月生まれ。かしま歯科医院院長
日本大学歯学部・松戸歯学部兼任講師、川口歯科医師会理事